



No. 11-1
近畿地方整備局
事業評価監視委員会
平成29年度第4回

一般国道175号

にしわききた
西脇北バイパス

【再評価】

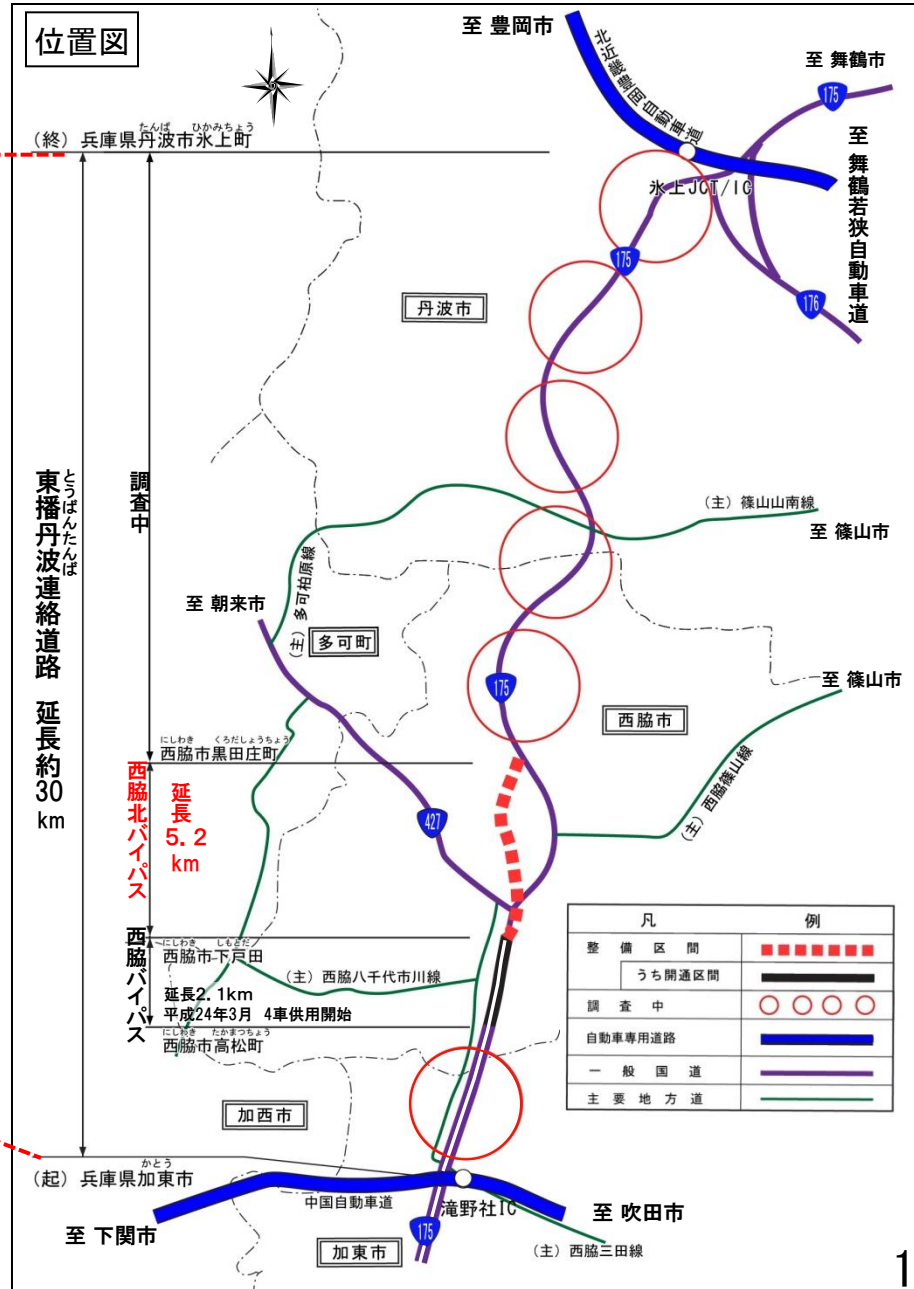
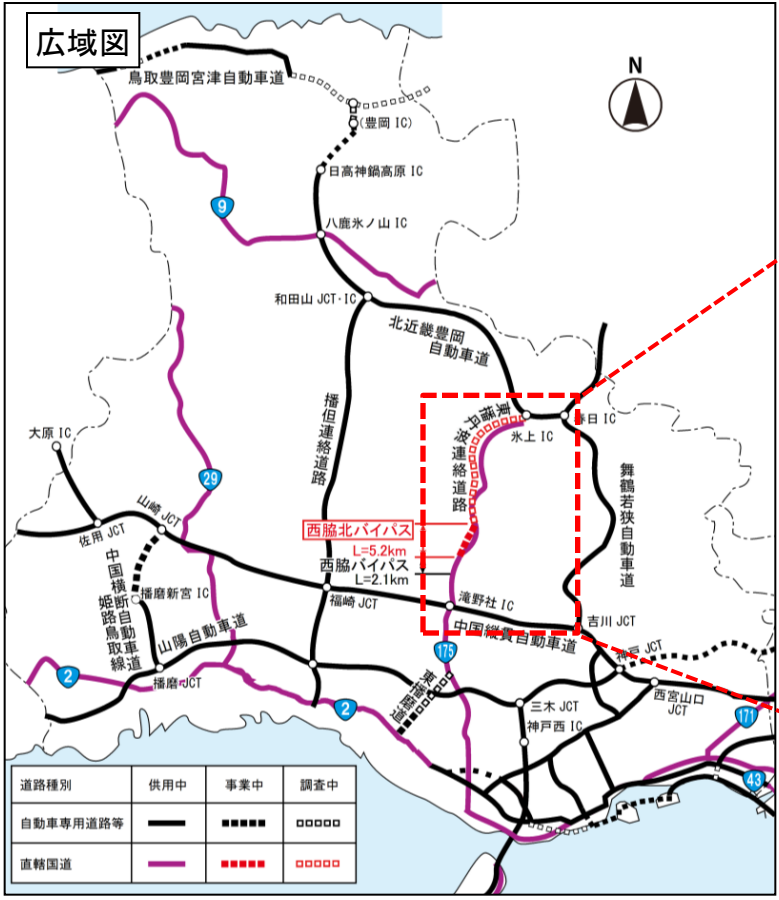
平成29年10月
近畿地方整備局

事業全体図

一般国道175号 西脇北バイパス

東播丹波連絡道路は、東播地域と丹波地域の連携を強化するとともに、山陽自動車道、中国縦貫自動車道、北近畿豊岡自動車道と一体となって広域ネットワークを形成する延長約30kmの地域高規格道路です。

国道175号西脇北バイパスは、東播丹波連絡道路の一部を形成し、西脇市域と東播地域及び丹波地域へのアクセス性の向上、西脇市域における国道175号の交通混雑の緩和、交通安全の確保等を目的とした道路です。



1. 事業の概要

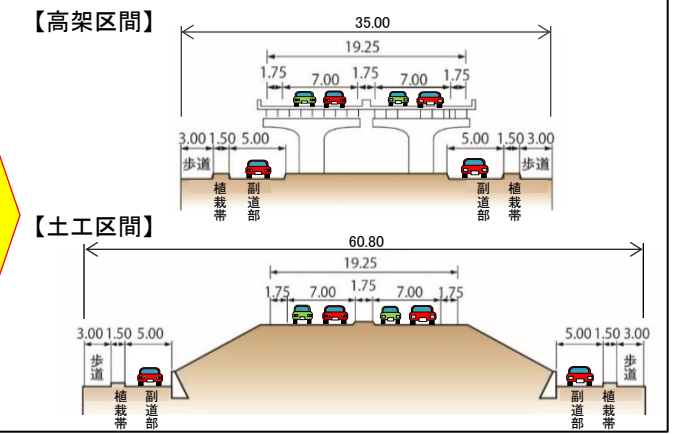
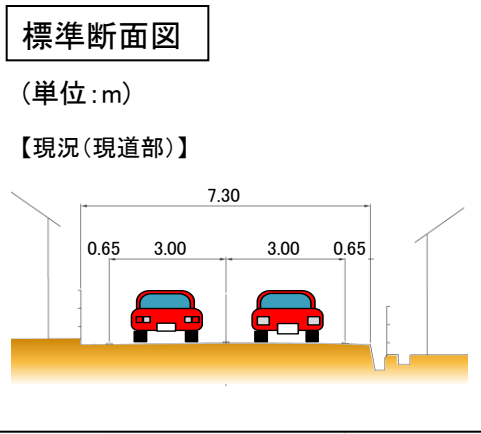
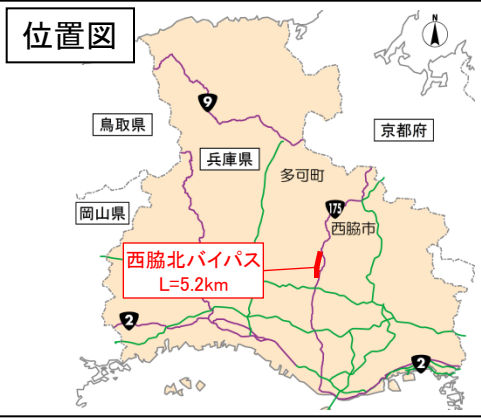
一般国道175号 西脇北バイパス

事業の目的

- 交通混雑の緩和
- 交通安全の確保

計画の概要・進捗状況

区間	(起) 兵庫県西脇市下戸田 (終) 兵庫県西脇市黒田庄町大伏
道路延長	5.2km
構造規格	第3種第1級
設計速度	80km/h
車線数	4車線
標準幅員	土工区間: 60.80m 高架区間: 35.00m (本線部: 19.25m)
計画交通量	20,100台/日
全体事業費	400億円
事業化	平成9年度
都市計画決定	平成10年7月
用地着手	平成12年度
工事着手	平成18年度
事業進捗率	約46%(平成29年3月末現在)
用地取得率	約96%(面積ベース、同上)

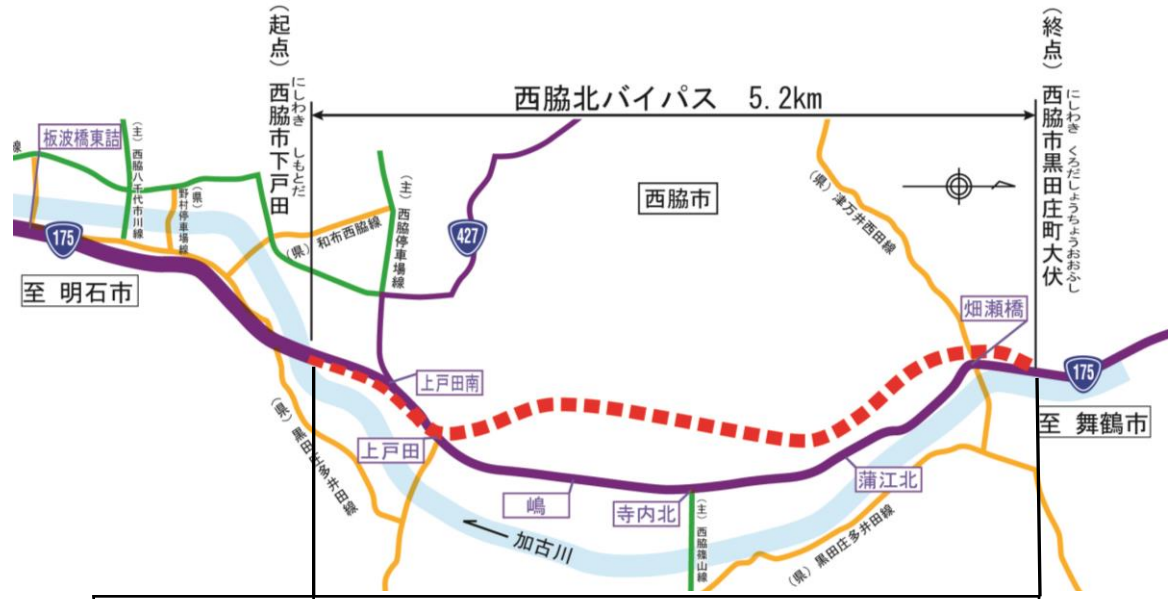


2. 再評価の視点

再評価の視点	現在の状況	備考
事業の必要性に関する視点		
1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化	前回再評価時点(H26年7月)から大きな変化なし	
2) 事業の整備効果	前回再評価時点(H26年7月)から大きな変化なし	
3) 事業の投資効果	社会経済情勢等に大きな変化がないため算出を省略	前回 全体 B / C 1.1 残事業 B / C 2.0
4) 事業費の変化	前回再評価時点(H26年7月)から変化なし	
5) 地域における計画等	前回再評価時点(H26年7月)から大きな変化なし	
事業の進捗の見込みの視点	進捗率(事業費) 約46% 用地取得率(面積) 約96%	
コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点	新技術・新工法の活用などを引き続き検討	

3. 事業進捗の見込みの視点

- 1) 事業の進捗状況
 - 平成29年度事業内容
 - ・現在、調査・設計、用地買収、トンネル工事・橋梁工事等を実施しています
 - 進捗状況
 - ・平成28年度末までの進捗は、用地進捗率約96%（面積ベース）、事業進捗率約46%（事業費ベース）です。
 - 事業進捗上の課題
 - ・大きな課題はありません
- 2) 今後の事業スケジュール等
 - ・引き続き事業を推進し、早期の開通を目指します



区間	西脇北バイパス(5.2km)
用地	用地取得 96%
工事	橋梁・トンネル工事推進中

※用地進捗率は、H29年3月末の面積ベース

■兵庫県知事

平成29年10月20日 土第1470号

近畿地方整備局事業評価監視委員会に諮る対応方針(原案)の作成に係る意見照会について(回答)

一般国道175号西脇北バイパスは、中国自動車道滝野社ICと北近畿豊岡自動車道氷上ICを連絡する地域高規格道路「東播丹波連絡道路」の一部を形成する重要な道路である。

当該区間の国道175号現道は、2車線で、交通容量(9,985台/12h)を大幅に上回る13,708台/12hの交通量があり、西脇市中心部への入口となる上戸田南交差点及び蒲江北交差点で渋滞が発生している。

また、現道の6割の区間において歩道が未整備であり、歩行者や自転車が危険な状態にあることから、交通混雑の緩和、安全性の向上を図る西脇北バイパスの早期整備が喫緊の課題になっている。

沿線では、平成29年4月、西脇北バイパス(仮)寺内ランプ隣接地に24時間対応の消防出張所が開設された。本バイパスの完成により、現場到着時間の短縮が期待できる。また、(仮)下戸田ランプ付近では、市役所新庁舎及び市民交流施設が平成32年度に完成予定であり、西脇市ではこれら施設を核とした中心市街地の活性化を図ることとしている。このため、沿線市からも早期完成の強い要望がある。

こうしたことから、安全で円滑な交通確保と地域の活性化に資する本バイパスの早期供用に向けて引き続き取り組んでいただきたい。

◆沿線市町村の期待

■西脇市長

(期待する効果)

①防災力、救命力の向上

- ・国道175号の交通混雑の緩和、移動時間の短縮による災害時の防災機能の強化
- ・沿線病院への迅速な緊急搬送による救命率の向上

②産業振興、交流活動の促進

- ・中国自動車道滝野社IC等へのアクセス向上による企業立地、物流・交流活動の拡大
- ・アクセス向上に伴う中心市街地の活性化

③安全性の向上

- ・交通分散による国道175号の事故発生の危険性低減、高校生の通学時の安全性向上

(取り組み)

- ・寺内ランプの隣接地に西脇消防署西脇北出張所を建設(H29.4開所)
- ・市立西脇病院の建替(H21グランドオープン)
- ・上比延工場公園の整備(H24分譲開始、H27完売)
- ・新たな企業誘致、観光誘客の推進
- ・下戸田ランプ付近の中心市街地に市役所新庁舎と市民交流施設を建設(H32年度予定)
- ・西脇北バイパスへ接続する市道上野上戸田線に歩道を整備
- ・西脇北バイパスの必要性を周知するため積極的な住民広報を実施

西脇北バイパスは、事業の必要性等に関する視点に変更はなく、事業の進捗の見込みの視点から継続が妥当と判断できる。

引き続き事業を推進し、早期の供用を目指すことが適切である。

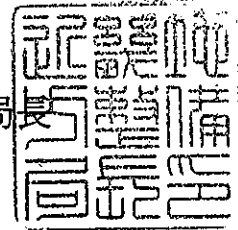
事業継続



国近整企画114号
平成29年10月4日

兵庫県知事 殿

近畿地方整備局長



近畿地方整備局事業評価監視委員会に諮る対応方針
(原案)の作成に係る意見照会について(依頼)

貴職におかれましては、日頃から国土交通行政に対する御理解、御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当地方整備局管内における直轄事業については、国土交通省所管公共事業の再評価実施要領(以下「実施要領」という。)に基づき、事業採択後一定期間が経過している事業等について、その効率性、実施過程の透明性を図るべく、近畿地方整備局事業評価監視委員会(以下「委員会」という。)において、再評価に係る対応方針(原案)について審議しております。

このたび、平成29年10月30日(月)に委員会を開催することとなりましたので、実施要領に基づき、委員会に諮る対応方針(原案)の作成にあたり、平成29年10月20日(金)までに、別紙について貴職の御意見を承りたく依頼いたします。

※御意見の送付・問い合わせ先

近畿地方整備局 企画部 企画課 事業評価係

電話 06-6942-1141

FAX 06-6942-7463

(再評価)

【海岸事業】

事業名	「対応方針(原案)」案※	備考
東播海岸直轄海岸保全施設整備事業	事業継続	

※貴職の意見を踏まえ、近畿地方整備局事業評価監視委員会へ諮る対応方針(原案)を作成するためのものです。

【道路事業】

事業名	「対応方針(原案)」案※	備考
一般国道175号西脇北バイパス	事業継続	
一般国道176号名塩道路	事業継続	

※貴職の意見を踏まえ、近畿地方整備局事業評価監視委員会へ諮る対応方針(原案)を作成するためのものです。

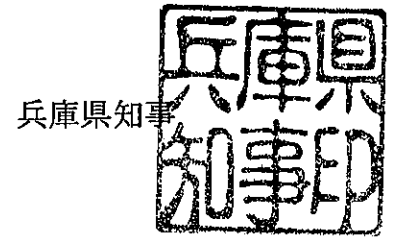
【港湾事業】

事業名	「対応方針(原案)」案※	備考
尼崎西宮芦屋港尼崎地区国際物流ターミナル整備事業	事業継続	

※貴職の意見を踏まえ、近畿地方整備局事業評価監視委員会へ諮る対応方針(原案)を作成するためのものです。

土 第 1470 号
平成 29 年 10 月 20 日

近畿地方整備局長 様



近畿地方整備局事業評価監視委員会に諮る対応方針（原案）の作成
に係る意見照会について（回答）

平成 29 年 10 月 4 日付け国近整企画 114 号で照会のありました標記の件につきまして、別紙のとおり回答します。

【一般国道 175 号西脇北バイパス】

兵庫県知事の意見

一般国道 175 号西脇北バイパスは、中国自動車道滝野社 I C と北近畿豊岡自動車道氷上 I C を連絡する地域高規格道路「東播丹波連絡道路」の一部を形成する重要な道路である。

当該区間の国道 175 号現道は、2 車線で、交通容量 (9,985 台/12h) を大幅に上回る 13,708 台/12h の交通量があり、西脇市中心部への入口となる上戸田南交差点及び蒲江北交差点で渋滞が発生している。

また、現道の 6 割の区間において歩道が未整備であり、歩行者や自転車が危険な状態にあることから、交通混雑の緩和、安全性の向上を図る西脇北バイパスの早期整備が喫緊の課題となっている。

沿線では、平成 29 年 4 月、西脇北バイパス (仮) 寺内ランプ隣接地に 24 時間対応の消防出張所が開設された。本バイパスの完成により、現場到着時間の短縮が期待できる。また、(仮) 下戸田ランプ付近では、市役所新庁舎及び市民交流施設が平成 32 年度に完成予定であり、西脇市ではこれら施設を核とした中心市街地の活性化を図ることとしている。このため、沿線市からも早期完成の強い要望がある。

こうしたことから、安全で円滑な交通確保と地域の活性化に資する本バイパスの早期供用に向けて引き続き取り組んでいただきたい。